

## シンガポールの概況

溝口 由己

(新潟大学経済学部助教授)

## 1. 人口

## (1) 人口とその内訳

国土面積が、淡路島 (592km<sup>2</sup>) あるいは東京23区 (617km<sup>2</sup>) とほぼ同じであるシンガポール (685km<sup>2</sup>) には、2003年現在、約344万人のシンガポール市民および永住権保持者と約75万人の外国籍労働者など併せて約419万人が居住する。

シンガポール市民及び永住権保持者に関して、そのエスニシティ別内訳は、およそ4分の3を華人系が占め (76.2%)、残りをマレー系 (13.8%)、インド系 (8.3%)、その他 (1.7%) が占めるという、華人系人口が主流を占める人口構成になっている。

年齢層別に人口構造をみると (図表-1)、全体に占める65歳以上人口の割合である高齢化率は7.7%と20%に近い日本と比べて決してまだ高い水準にはない。ただし近年、合計特殊出生率は急激に落ち込んでおり (図表-2)、2003年には日本の1.29を下回る1.26を記録し、今後の急速な高齢化が予想される。急激に低下する合計特殊出生率をエスニシティ別にみると (図表-3)、特に華人系で低く (2002年に1.18)、逆にマレー系では相対的に高い (2002年に2.29)。ただしすべてのエスニシティで合計特殊出生率は低下している。

## (2) 婚姻・離婚

合計特殊出生率の低下にみられる少子化の原因の一つとして指摘されるのが晩婚化・非婚化であるが、性別・年齢別に特殊婚姻率をみると (図

表-4)、1993年から2003年にかけて、男女ともすべての年齢層で特殊婚姻率は低下している。なかでも男性では25~29歳の年齢層で下落幅が最も大きく、女性では20~24歳の年齢層で最も下落幅が大きい。

平均初婚年齢は男女ともに80年代から上昇をはじめ (図表-5)、2003年で男性30.5歳、女性28.3歳となっている。1993年から2003年にかけて性別・学歴別・平均初婚年齢の変化をみると (図表-6)、男女ともにすべての学歴層で平均初婚年齢の上昇がみられるが、特に小学校卒以下の学歴層で最も大きな上昇がみられる。

また、離婚については、性別・年齢別・特殊離婚率の1993年から2003年の推移をみると (図表-7)、すべての年齢層で特殊離婚率が上昇しているが、特に20~24歳の年齢層で男女とも大幅に上昇していることがわかる。

離婚件数の年齢層別の構成比率を男女ごとにみると (図表-8)、1993年から2003年にかけて、男女ともに、45歳以上の中高年層での離婚件数比率が増加していることがわかる。

特殊婚姻率の低下や特殊離婚率の上昇からうかがえるように、シングル世帯の割合は増加しており、1980年から2000年にかけて35~44歳の年齢層におけるシングル (離・死別は含まない) の割合は、8.2%から15.8%へと増加している (図表-9)。ただし、エスニシティごとに傾向は異なり、1990年から2000年にかけて、目だって増加しているのは華人系だけであり、マレー系では微増 (女性では微減)、インド系、その他では逆に減少してい

ることは興味深い。15歳以上年齢では2003年現在の未婚者比率は全体で31.1%となっている（図表-10）。

## 2. 言語と教育

### (1) 言語

シンガポール人（市民および永住権保持者）の言語使用状況についてみる。1980年から2000年にかけて、各エスニシティの母語のみ使用可能である者の割合は大幅に減り、英語と母語が使用可能である者の割合が増加している（図表-11）。これは、1965年の独立以降、隣国マレーシアとの摩擦回避と国内でのエスニック・マイノリティの不満軽減をはかるべく、英語を第一言語とし、各母語を第二言語とする言語政策を採用してきた（田村 2000）ことの効果であろう。ただし、90年代に入り、華人を中心とするナショナル・アイデンティティの確立が唱えられるようになると、図表-12にみるように、使用可能な言語とは別に、家庭内で使用される言語は、1990年から2000年にかけて、華人系において中国語の方言（広東語が多いと思われる）使用が減り、代わって中国語の標準語使用が大幅に増加し、華人系家庭内で最も多く使用される言語となっている。

華人系の存在感を抑制する政策から「華化」によるナショナル・アイデンティティの確立へと政策トーンが変調するなかで、華人系の母語である方言ではなく、中国語の標準語が使用されるようになってきているといえる<sup>1)</sup>。

### (2) 最終学歴

シンガポールは独立からまだ今年で40年目と歴史が浅いが、短期間で急速に教育制度を普及させてきた結果、世代ごとに最終学歴構成は大きく異なる（図表-13）。2003年現在、55歳以上の大学卒は3.5%にすぎないが、25-39歳の年齢層では28.7%である。

エスニシティ別に最終学歴構成をみると（図表-14）、いずれのエスニシティにおいても大学卒の構成比が上昇しており、最終学歴が高等化して

いるものの、マレー系の最終学歴が他のエスニシティ・グループと比べ、同様には高等化していないことが目立つ。

## 3. 住居

### (1) 住宅形態の種類

シンガポールは独立した翌年に土地収用法を定め（1966年）、土地の国有化を推し進めてきた。その結果、1968年に26%であった国有地割合は、1985年には75%と国土の4分の3を国有化するにいたった。シンガポール政府はその国有地に公共住宅を建設し、公的に住宅を供給してきた。これら公共住宅は開発主体である住宅開発庁＝HDB（Housing Development Board）にちなんで、HDBフラットと呼称されている。一般にHDBフラットは団地単位で建設され、高層アパートが十数棟から数十棟で一つのタウンを形成し、タウン内には、コミュニティ・センターと呼ばれる行政の末端組織のほか、幼稚園や病院、ホーカーセンターと呼ばれる食堂街やストアなど生活に必要な組織が一揃い配置されている。

HDBフラット以外に、コンドミニウムと呼ばれるテニスコート、プールなどの設備をもつ高級マンション、日本での一般マンションに相当するアパートメントハウス、テラスハウスと呼ばれる長屋式の土地付き住宅、バンガローハウスと呼ばれる高級な一戸建てなどがある。

### (2) 住宅形態の構成比と持ち家率

これら住宅形態の構成比（図表-15）は、HDBフラットの比率が上昇し、2000年には88%と圧倒的多数を占めるが、そのHDBフラットのなかでも、4部屋、5部屋ある広いフラットの比率が伸び、2000年では4部屋（およそ120m<sup>2</sup>）のフラットが約33%と最も多い。

住宅の持ち家率は1980年から2000年にかけて、全体で58.8%から92.3%と目覚しく伸長し、小型のHDBフラット（1部屋、2部屋のフラット）以外はおおむね持ち家率は天井高に近いといえる（図表-16）。小型のHDBフラットの持ち家率が低

いのは、家族形成前の若者世帯が過渡的に使用しているためと思われる。また、住宅形態別に平均居住者数をみると（図表-17）、「その他」以外で平均居住者数は減少しており、最も構成比の高い4部屋のHDBフラット（およそ120m<sup>2</sup>）を例にとると、平均居住者数は2000年で4.1人となっている。

## 4. 労働

### (1) 労働力率

シンガポール人の労働力率は、男女別に労働力率カーブをみると（図表-18）、女性の労働力率カーブに特徴があり、日本や韓国で見られるM字型でもなく、中国などの高原型でもなく、25～29歳をピークにその後なだらかに労働力率が低下する山型を描く。

1980年から2000年にかけての労働力率の変化をみると、全体では大きな変化がみられないものの、性別・婚姻状態別では有配偶女性の労働力率が20ポイント近く上昇しており、逆に無配偶女性の労働力率は10ポイント近く低下している。男性では、配偶状態にかかわらず労働力率は低下している（図表-19）。

エスニシティ別に労働力率の推移をみると（図表-20）、1990年から2000年にかけて、男性ではインド系とその他で労働力率が微増している例外があるものの、それ以外のエスニシティでは男性労働力率は微減で、かつ労働力率の値そのものにエスニシティ間の大きな差はない。女性では、華人系とその他で労働力率は上昇し、マレー系とインド系で低下しており、推移の動きにエスニシティ間で違いがみられる。また労働力率の値そのものも最も高い華人系（52.0%）と最も低いマレー系（40.8%）の間で10ポイント以上の差があり、女性の労働力率に関しては、エスニシティ間で差異がみられる。

### (2) 職種

産業構成が製造業からサービス産業へとシフトしたのに応じて、職種の構成比も製造系から専門職、技術職、管理職へとシフトしているが、エスニシティ別にみると（図表-21）、華人系、インド系、その他では製造系、事務職・販売職・サービス職が減少し、代わって増加した専門職・技術職・管理職の比率が最も大きいのが、マレー系では製造系が減少している点は他のエスニシティと同様だが、事務職・販売職・サービス職も増加しており、これがもっとも大きい比率を占めている。

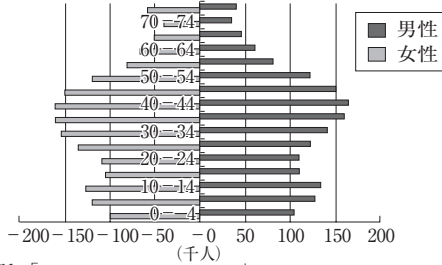
#### 注

- 1) このため、華人系では、広東語を主とする中国語の方言しか使用できない高齢層、中国語は一切できず英語しか使用できない中年層、中国語の方言は使用できず、中国語の標準語と英語が使用可能な若年層と、世代ごとに使用可能言語が明瞭に分かれる状況となっている。

#### 文献

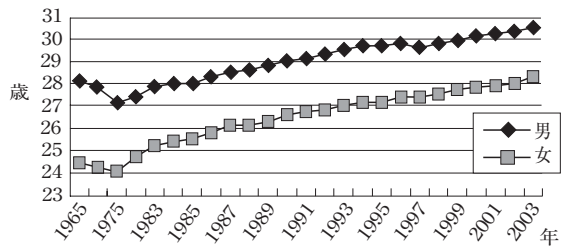
- 厚生労働省，各年，『人口動態統計』。  
 田村慶子，2000，『シンガポールの国家建設』明石書店。  
 Singapore Department of Statistics, 2004, Key Stats: Key Indicators of the Resident Population ([www.singstat.gov.sg/keystats/c2000/indicators.pdf](http://www.singstat.gov.sg/keystats/c2000/indicators.pdf)).  
 ———, 2004, *Singapore in Figures 2004* (<http://www.singstat.gov.sg/keystats/annual/sif/sif2005.pdf>).  
 ———, 2001, *Singapore Population: The Census 2000 Handbook* (<http://www.singstat.gov.sg/keystats/c2000/handbook.pdf>).  
 ———, 2004, *Statistics on Marriages and Divorces 2003*.  
 ———, 2004, *Statistics Singapore Newsletter [September 2003]* (<http://www.singstat.gov.sg/ssn/feat/nov2003/pg10-13.pdf>).  
 ———, 2004, *Yearbook of Statistics Singapore 2004*.

図表-1 シンガポールの人口ピラミッド



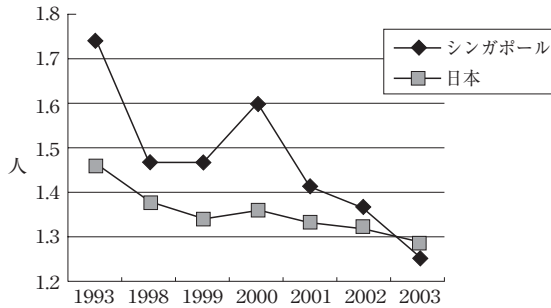
出所: 「Singapore in Figures 2004」

図表-5 平均初婚年齢の推移



出所: 「Statistics on Marriages and Divorces 2003」

図表-2 シンガポールと日本の合計特殊出生率



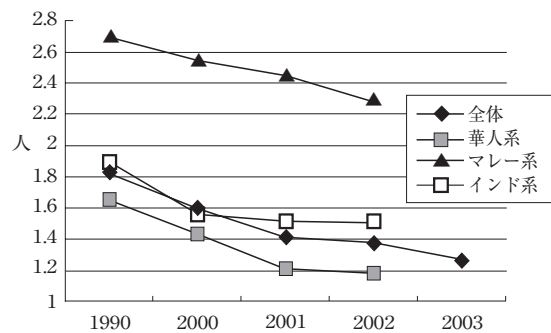
出所: 「Yearbook of Statistics Singapore 2004」  
厚生労働省『人口動態統計』

図表-6 性別・学歴別・平均初婚年齢の推移 (歳)

	男性		女性	
	2003	1993	2003	1993
小学卒以下	33.4	30.2	28.0	26.8
中学卒	30.8	29.3	27.2	26.3
高校 <sup>1)</sup> 卒	29.3	28.7	26.8	26.1
大学卒	30.2	29.8	28.1	27.5

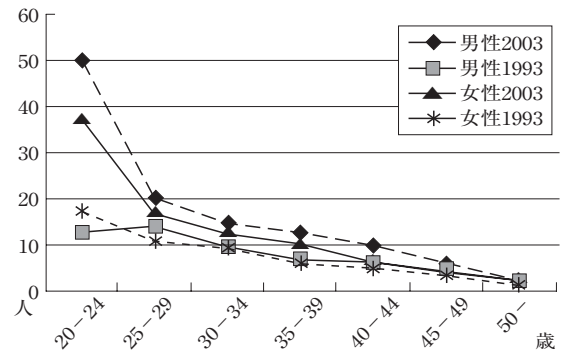
注: 1)ここで高校とは、ジュニア・カレッジ、ポリテクニク、技術教育研修所のこと  
出所: 「Statistics on Marriages and Divorces 2003」

図表-3 エスニシティ別合計特殊出生率



出所: 「Statistics Singapore Newsletter September 2003」

図表-7 性別・年齢別特殊離婚率



出所: 「Statistics on Marriages and Divorces 2003」

図表-4 性別・年齢別特殊婚姻率

年齢	男性				女性			
	1993		2003		1993		2003	
	結婚件数	特殊婚姻率	結婚件数	特殊婚姻率	結婚件数	特殊婚姻率	結婚件数	特殊婚姻率
15-19	89	2.5%	51	1.9%	613	4.9%	294	4.1%
20-24	2635	31.2%	1447	20.0%	7363	78.3%	4260	50.7%
25-29	9047	114.6%	7532	97.3%	8365	135.4%	8723	119.8%
30-34	5496	107.0%	4865	97.9%	2829	73.2%	3070	71.6%
35-39	2118	77.4%	2035	63.2%	997	38.0%	994	34.8%
40-44	740	50.3%	1092	40.9%	337	18.7%	437	17.2%

出所: 「Statistics on Marriages and Divorces 2003」

図表-8 性別・年齢別離婚件数比率

	男性		女性	
	1993	2003	1993	2003
全体	100.0	100.0	100.0	100.0
-25	0.5	0.7	4.6	3.3
25-34	35.2	26.0	48.0	38.6
35-44	42.4	37.7	34.3	33.0
45-	20.1	30.3	11.3	19.7
不明	1.8	5.3	1.8	5.4
平均年齢	38.9	41.2	35.5	37.7

出所: 「Statistics on Marriages and Divorces 2003」

図表-9 35~44歳での未婚者比率の推移

(%)

	全体			華人系		マレー系		インド系		その他	
	1980	1990	2000	1990	2000	1990	2000	1990	2000	1990	2000
全体	8.2	14.1	15.8	15.0	17.6	9.3	9.8	11.4	9.9	14.9	10.1
男性	9.3	14.9	17.3	15.8	19.1	9.7	11.0	11.7	10.8	17.2	13.0
女性	7.2	13.3	14.4	14.1	16.0	9.0	8.5	11.0	9.0	12.6	7.9

出所: 「Key Stats」 および 「Singapore Population」

図表-10 15歳以上の婚姻状態構成比

(%)

	全体	男性	女性
全体	100.0	100.0	100.0
未婚	31.1	33.9	28.4
婚姻	60.8	62.5	59.1
死別	5.8	1.9	9.5
離婚	2.4	1.6	3.0

出所: 「Statistics on Marriages and Divorces 2003」

図表-11 エスニシティ別・使用可能言語

(%)

	1980	1990	2000
華人系	100.0	100.0	100.0
中国語のみ	48.8	40.6	32.0
英語のみ	20.7	19.8	16.4
英語と中国語のみ	28.3	37.8	48.3
その他	2.2	1.9	3.3
マレー系	100.0	100.0	100.0
マレー語のみ	36.5	27.3	19.8
英語のみ	2.9	3.2	2.0
英語とマレー語のみ	59.7	68.1	76.7
その他	0.9	1.4	1.5
インド系	100.0	100.0	100.0
タミル語のみ	19.5	14.5	8.9
英語のみ	20.0	22.1	21.5
英語とタミル語のみ	28.1	31.5	37.5
英語とマレー語のみ	15.8	19.1	17.4
その他	16.6	12.8	14.6

出所: 「Singapore Population」

図表-12 エスニシティ別・家庭内使用言語

(%)

	1990	2000
華人系	100.0	100.0
英語	19.3	23.9
中国語(標準語)	30.1	45.1
中国語(方言)	50.3	30.7
その他	0.3	0.4
マレー系	100.0	100.0
英語	6.1	7.9
マレー語	93.7	91.6
その他	0.1	0.5
インド系	100.0	100.0
英語	32.3	35.6
タミル語	43.2	42.9
マレー語	14.5	11.6
その他	10.0	9.9

注: 単身世帯は含まない

出所: 「Singapore Population」

図表-13 年齢層別・最終学歴構成

(%)

	15-24歳	25-39歳	40-54歳	55歳以上
全体	100.0	100.0	100.0	100.0
小学卒以下	12.1	19.5	48.1	78.1
中学卒	31.7	25.9	28.1	11.9
高校卒	47.1	25.9	13.5	6.5
大学卒	9.2	28.7	10.3	3.5

出所: 「Singapore in Figures 2004」

図表-14 エスニシティ別・最終学歴構成

(%)

	全体		華人系		マレー系		インド系		その他	
	1990	2000	1990	2000	1990	2000	1990	2000	1990	2000
学歴なし	31.3	19.6	32.0	20.2	30.5	20.0	27.7	13.9	15.5	7.5
小学卒	27.0	23.1	25.6	21.9	33.1	30.1	31.4	24.5	26.5	16.2
中学卒	26.5	14.6	25.7	23.2	30.0	32.1	27.8	26.4	33.9	25.2
高校卒	7.3	14.9	7.6	15.0	4.9	12.9	7.7	15.6	12.2	19.9
ポリティクニック卒	3.5	6.2	4.1	7.0	0.9	2.9	1.2	3.1	2.3	3.8
大学卒	4.5	11.7	5.1	12.6	0.6	2.0	4.1	16.5	9.6	27.5

出所: [Singapore Population]

図表-15 住宅形態の構成比とその推移

(%)

	1980	1990	2000
全体	100.0	100.0	100.0
HDBフラット	68.5	84.6	88.0
1&2部屋	21.9	8.2	5.0
3部屋	32.2	35.4	25.7
4部屋	9.8	27.4	33.2
5部屋	3.5	13.0	23.7
その他	1.1	0.7	0.4
コンドミニアム、アパートメントハウス	2.3	4.1	6.0
ハンカローハウス、テラスハウス	8.5	7.0	5.1
その他	20.6	4.3	0.9

出所: [Singapore Population]

図表-16 住宅形態別所有率とその推移

(%)

	1980	1990	2000
全体	58.8	87.5	92.3
HDBフラット	60.6	89.4	93.2
1&2部屋	5.2	26.8	19.2
3部屋	84.8	95.2	96.4
4部屋	96.2	97.6	98.3
5部屋	98.8	97.8	98.7
その他	17.5	42.3	60.4
コンドミニアム、アパートメントハウス	61.0	80.9	82.8
ハンカローハウス、テラスハウス	75.4	87.6	90.3
その他	46.0	56.6	83.8

出所: [Singapore Population]

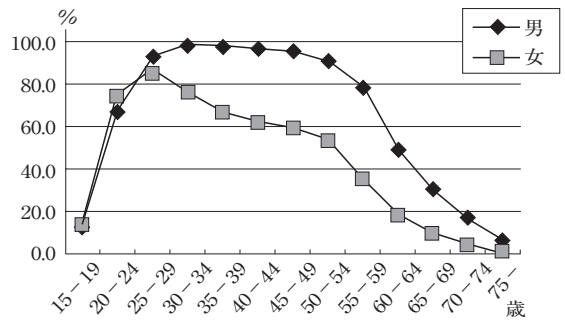
図表-17 住宅形態別・平均居住人数とその推移

(人)

	1980	1990	2000
全体	5.1	4.4	4.2
HDBフラット			
1部屋	3.8	2.9	2.0
2部屋	4.6	3.6	2.5
3部屋	5.1	4.3	3.4
4部屋	5.5	4.7	4.1
5部屋	4.8	4.6	4.3
その他	4.7	3.7	4.2
コンドミニアム、アパートメントハウス	3.9	3.8	3.6
ハンカローハウス、テラスハウス	5.1	5.1	5.0
その他	6.6	5.2	7.9

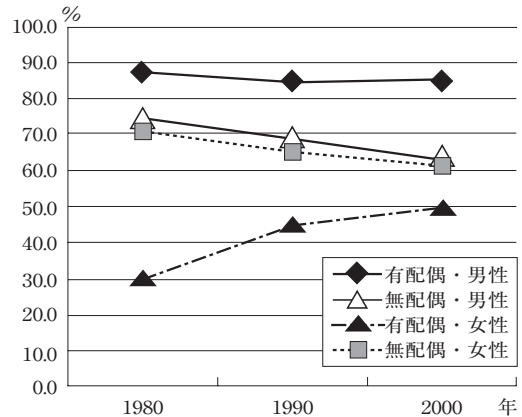
出所: [Singapore Population]

図表-18 性別・労働力率カーブ



出所: [Yearbook of Statistics Singapore 2004]

図表-19 性別・婚姻状態別労働力率の推移



出所: [Singapore Population]

図表-20 エスニシティ別・労働力率の推移 (％)

	全体		華人系		マレー系		インド系		その他	
	1990	2000	1990	2000	1990	2000	1990	2000	1990	2000
全 体	63.2	63.2	63.4	64.0	61.5	58.2	65.8	63.6	57.1	60.9
男 性	77.5	76.6	77.5	76.4	77.5	76.0	77.9	79.2	73.9	78.7
女 性	48.8	50.2	49.4	52.0	45.0	40.8	50.9	46.9	42.0	45.7

出所: 「Singapore Population」

図表-21 エスニシティ別・職種構成の推移 (％)

	全体		華人系		マレー系		インド系		その他	
	1990	2000	1990	2000	1990	2000	1990	2000	1990	2000
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
専門・技術・管理	27.0	43.5	29.7	46.2	11.7	23.4	22.3	43.3	40.7	63.5
事務・販売・サービス	29.4	26.7	28.8	25.2	31.4	36.2	32.0	29.2	34.1	24.7
製造系	27.7	19.3	26.5	18.6	37.7	27.5	24.1	15.4	12.8	6.7
清掃、肉体労働	10.9	6.8	9.7	6.2	16.2	10.7	15.2	8.0	6.5	3.0
その他	5.1	3.6	5.3	3.8	3.0	2.3	6.4	4.3	5.9	2.2

出所: 「Singapore Population」

みぞぐち・ゆうき 新潟大学経済学部助教授。中国経済論専攻。